

# フォント(字体)のはなし

高矢 慎一

昔から少し興味があって、お気に入りのフォントを見つけて使うということをしていました。フォーマルな文書を作るときは別ですが、少しでも温かみが欲しくて手書き風のフォントを使うことが多かったです。よく使っていたのは、「S26月フォント」「Yozフォント04」等でした。

「S26月フォント」ややゆるい感じの、手書き風フォントです。

「Yozフォント04」手書き風でありながら、活字っぽさのあるフォントです。

今から10年程前に突然、学年通信など、自分の字でできたらいいのになという思いが膨らみ、だったら作ってみるか!という軽いノリでフォント作りに挑戦しました。原稿用紙にペンで字を書き、それをスキャナで読み込み、PC上で調整をした後にフォントとして生成していくという作業です。

こうして初めて作ったフォントは、その年の学年通信の題名にちなんで、「春夏秋冬フォント」と名付けました。右は、そのとき初めて出した学年通信です。思った以上に実用に耐えるものかできたことが、何だか不思議な感じでした。

その後、調子によって別に2書体のフォントを作りました。この文章を打っているのは、2つ目に作った「花鳥風月」というフォントで、もう一つは少し角張った感じで作った「清風明月」というフォントです。



作ったフォントは、せっかくなのでフリーフォント(無償で使えるフォント)として公開、配布をしています。たまに企業が使ってくれることがあって、商品のパッケージとか広告とかで、自分の文字を目にしてびっくりすることがあります。少し前ですが、テレビの音楽番組で歌詞のテロップに使われたこともあります。これも結構びっくりでした。



また某少年漫画雑誌に連載中の漫画の中で、主人公の女の子が書く文字として採用されています。



フォントを作るにあたって、一番難しかったのは、バランス感覚です。例えば、それぞれの文字の大きさや幅について、これが絶対というものはなくて、同じ文字でも、隣に並ぶ文字によって最適な大きさや字間は変わってくるし、実際に文字を書く場合、知らない間にそういう調整をしているのではないかと思います。フォントとして作る時にそんなことはできないので、最大公約数的に決めていくことになりませんが、実際に文章として見たときに、やっぱりバランス悪いなあと感じることがよくあります。(これは自分が作ったフォントに限らず、一般に流通しているフォントでも感じることがあります。)

今私は船穂小学校で、授業としては書写しか担当していませんが、フォントを作ったときの経験が結構役に立っていると感じることがあります。習字を書く場合、トータル10とすると、字配り4、字形3、筆遣い3くらいかなあと思いながら授業をしています。

ちなみに、フォントを作るのは相当の根気とエネルギーがいる作業で、4つ目のフォントを作ることは絶対にはないと思います。なお、高矢の作ったフォントはホームページからダウンロードできるので、興味のある方は「春夏秋冬フォント」で検索してみてください。